

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 中国思想中国哲学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成績	
績	

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 (中国思想中国哲学 専攻分野)

問一 次の文章①②③は、清・納蘭性徳「経解総序」の一部である。現代日本語に翻訳せよ。

解答は、①②③それぞれの問題文の左側に記せ。 ※問題文には句読点等を書き入れてもよい。

①

經之有解自漢儒始故戴禮著經解之篇於時分
門講授曰易有某家詩書三禮有某家春秋有某
家者某宗師大儒也傳其說者謂之受某氏學則
終身守其說不敢變黨同舛異更廢迭興雖其持
論互有得失要其淵源皆自聖門諸弟子流分派
別各尊所聞無敢私竊一說者蓋其慎也

②

東漢之

初頗雜識緯然明章之世天子留意經學宣闡大義諸儒林立仍各專一家今譜系之列於儒林傳者可考而知也自唐太宗命諸儒刪取諸說爲正義由是專家之學漸廢而其書亦鮮有存矣至宋二程朱子出始刊落羣言覃心闡發皆聖人之微言奧旨

③

當時如臨川眉山象山龍川東萊永嘉夾

漈諸公其說雖微有不同然無有各名一家如漢
氏者逮宋末元初學者尤知尊朱子理義愈明講
貫愈熟其終身研求於是者各隨所得以立言要
其歸趨無非發明先儒之精蘊以羽翼聖經斯固
後世學者之所宜取衷也

問二 次の文章は、井上進『中国出版文化史―書物世界と知の風景―』の一節である。

これを読み、全文を現代中国語に訳せ。

十五世紀後半以来、既成の価値観はようやく挑戦にさらされるようになり、明朝の末年、十七世紀前半になると、もはや崩壊は必至ではないか、儒教を越える新しい学問が登場してくるのではないか、と思われるほどの事態となった。つまり儒教は自らをぎりぎりのところまで展開させたあげく、自己否定に至ろうとしたわけである。こうした儒教の危機が深化する過程は、裏返しに、あるいは外在的に言えば、異説、異端の解放が進展する過程であった。すでに見たとおり、十五世紀後半には必ずしも正統と一致せぬ儒者の著作、たとえば陸象山の文集などが、更に進んでは漢代の儒家文献が再刊されだし、十六世紀に入ると純然たる非儒家文献も、そして十六世紀後半に至れば、異端中の異端、「禽獣」の『墨子』さえ相次いで版を重ねるようになる。

問三 左記の六項目の中から三つの項目を選び、それぞれについて知るところを記せ。
中国語による解答も可。

- ①六家之要指 ②論語義疏 ③隋書經籍志 ④王守仁 ⑤黃宗羲
- ⑥章炳麟

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.